

6 - (2) 水産情報発信事業

清家 裕・野々村卓美・藤岡秀文
渡辺秀洋・徳安理敬

目的

鳥取県沖合域の水温状況や漁獲される魚の資源状況及び試験研究成果を、水産関係者などにわかりやすく大型ポスターなどにより情報提供を行う。

方法

(1) 大型ポスター

海洋観測結果、試験研究成果、各種お知らせについて、漁業協同組合及び県関係施設に大型ポスターである「魚取新報」を掲示した。

(2) ファクシミリ及びホームページ

水揚げ情報、水温分布図、試験操業情報、漁況情報などをファクシミリ及びホームページなどで情報提供した。また、沿岸潮流観測ブイの観測結果については、電子メール、ホームページ、電話応答サービスにより提供した。

(3) 電話応答サービス

ケンサキイカの他県の漁模様及びスルメイカの水揚げ状況について電話で案内した。

(4) 連絡会議、報告会など

海況及び浮魚類、底魚類、イカ類の漁況並びに今後の動向について境港漁海況連絡会議を12月に開催した。

(5) レポート

1年間の海洋環境、水産資源、試験研究結果をわかりやすくした「海洋環境・水産資源レポート」の作成を行なった。

(6) 水産試験場一日開放日、各種イベント

県民に広く水産試験場の業務や海の不思議さ、魚の面白さについて、知っていただくため、一日開放日として第8回水産試験場「海と魚の学習日」を開催した。その他、地域のイベントに参加し、水産試験場の研究成果および県内水産物のおいしさ等の魅力を発信した。

結果

(1) 大型ポスター

県内各漁協（支所）22箇所、山陰海岸ジオパーク海と大地の自然科学館1箇所、鳥取県庁2箇所、とっとり賀露かっこ館1箇所、西部総合事務所（西部県民局）1箇所、夢みなとタワー1

箇所、水産試験場1箇所、栽培漁業センター1箇所、境港水産物直売センター1箇所、境港水産物地方卸売市場1箇所に海況情報などを月1回掲示した。

(2) ファクシミリ及びホームページ

境港におけるまき網及びスルメイカの水揚げ情報、栽培漁業センター取水口における水温、御崎沖沿岸潮流観測ブイによる表面水温観測については、旬ごとに県内漁協、各県水試、新聞社、水産研究所など91箇所にファクシミリで配布した。海洋観測結果、試験船調査速報、境港の漁獲量や市場調査状況、水温など適時水産関係者などにファクシミリにより配信した。

(3) 電話応答サービス

ケンサキイカの長崎県・兵庫県の漁模様及びスルメイカの水揚げ状況について週2回電話応答案内サービス（電話 0859-45-4505）の更新を行った。また、県内2箇所（酒津・御崎沖）に設置した沿岸潮流観測ブイの観測結果を案内した。

(4) 連絡会議、報告会など

令和元年12月10日にまき網、イカ釣、沖合底びき網を対象とした境港地区漁海況連絡会議を開催した。本会議では、講師に水産研究・教育機構西海区水産研究所の北島聡氏を講師にお迎えし、プランクトンサンプルと胃内容物から見た対馬暖流域の小型浮魚類の生活史初期の生態についての特別講演をいただいた。第二回の会議を3月に開催する予定としていたが、新型コロナウイルス関係により開催を中止し、漁業関係者に発表資料を配布した。

マアジ新規加入量及びクロマグロの資源状況について報告会を令和元年7月26日に境港で開催した。

また、沿岸イカ釣りの今後の見通しについて平成31年4月5日に網代漁村センターにおいて、岩美地区のイカ釣り漁業者を対象に説明会を開催した。

(5) レポート

平成30年度の海洋環境と水産資源の状況や水産試験場の一年間の試験研究結果をわかりやすく説明した「海洋環境・水産資源レポート」を令和元年5月に作成し、ホームページに掲載するとともに水産関係機関などに配布した。

(6) 水産試験場一日開放日, 各種イベント

第8回水産試験場「海と魚の学習日」は9月7日に開催し、イカのブランド化に関する調査研究の講演, ヒレグロ(べらんすがれい)の解剖と干物作り教室, キジハタすくい・放流, 海藻しおり作り等のワークショップ, 第一鳥取丸見学などを行い141名の来場者があった。

また, 各種イベントとして, 第9回境港まぐろ感謝祭(6月16日)では, クロマグロについてのパネル, 耳石や卵の標本などの展示を行った。境港水産祭り(10月13日)では, ズワイガニタッチング, 鳥取県産ハタハタの美味しさ説明展示, 焼き干しハタハタの試食を行った。